



英國人  
ヘンリー・セルナツシ著  
銀貨説

封筒





目次

第一章 銀貨盛衰ノ説

第二章 印度為替相場ノ説

第三章 損害ノ説

第四章 怠惰ノ説

第五章 方法ノ説

第六章 救済法ハ獨リ金銀保用ニ在ル説

第七章 辨駁説

第八章 十五<sup>半</sup>千<sup>半</sup>ノ比例ハ動ス可ラサル説

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈



銀貨説

第一章

銀貨盛衰ノ説

一千八百七十一年十二月四日日耳曼國法ニ於  
テ銀貨ノ鑄造ヲ禁止セレ時マデハ全世界ニ於  
テ銀ノ產出高凡ソ十ヶ年ノ間毎年平均一千万  
ポンド<sup>1</sup>ムテ<sup>1</sup>リング<sup>1</sup>ト計異セリ而レテ千八百  
七十二年以降ハ平均ノ產出高一千三百七十万  
ポンド<sup>1</sup>(減價ヲ差引セム)ノ巨額ニ登リ其前年ニ  
超カスル<sup>1</sup>三百七十万<sup>1</sup>ポンド<sup>1</sup>ニレテ實ニ產出ノ夥



レキ此時ヲ~~必~~テ最トスル如シ

一千八百七十二年以降金ノ産出高ハ一ヶ年ハ  
千九百万ポンドニシテ恰モ銀ノ産出高ヨリ三  
分一有餘ノ多キヲ加ヘリ

斯ノ如キ有様ナルヲ以テ偶々銀ノ價格ヲ其本分  
ニ恢復セント欲シ只管銀山ノ繁盛ナルヲ患フ  
ル者アリシト虽モ到底何等ノ策ヲモ施シ得サ  
リキ是レ蓋シ一ニ立法官ノ處置ニ依ルベキ事

ナリ

金ノ産出高ハ千八百五十年マデハ一ヶ年六百

万ポンドトゾ、ナリシガ千八百五十二年ニ於テ

俄カニ三千六百万ポンドノ巨額ニ登リタリ然

レ氏金ハ銀ノ比例相場ニ於テ決シテ其價格ヲ

減セザリキ千八百三十年マデ銀ノ年々産出高

ハ價直ニ於テ金ノ産出高ヨリモ三倍ノ多キヲ

加ヘレガ千八百五十年以後ハ其價直是金ノ反對

シ金ノ年産ハ價直ニ於テ銀ノ年産ヨリモ三倍

ノ多キヲ加ヘタリ然レ氏金銀トモニ比例相場

ニ於テハ決シテ変ルナカリキ其故如何トナ

レバ當時仁國ハ金銀兩用(金銀兩種ノ貨幣)ノ國



ニシテ歐洲全國皆被レノ手ヲ經テ直接若クハ  
間接ニ兩用ノ便ヲ蒙ルヲアルベナリ例ハ英  
國ハ特ニ金貨ノミヲ鑄造シ而シテ銀貨ハ必ス  
之ヲ仙圓ニ仰クモノトス則チ金貨ヲ仙圓へ送  
リ金貨壹個ニ付銀貨十五半ノ一定相場ヲ以テ  
之ヲ交換スルナリ之レニ反シ日耳曼國ハ銀貨  
ヲシテ鑄造スレ氏金貨ハ必ス之ヲ仙圓ニ仰  
ケリ而シテ銀貨ヲ仙圓へ送り是亦十五半ノ一  
定相場ヲ以テ金貨ト交換スルナリ  
斯ノ如クナレバ佛國ハ常ニ十五半ノ一定相場

ヲ有スル市場ニシテ廣ク各國ノ交易ヲ自由ニ  
スル所ナルガ故ニ此十五半ノ相場ハ固ク各國  
ノ遵守スル所トナリ英國ニ於ケルモ米國ニ於  
ケルモコンスタンチノールニ於ケルモ或ハ  
カルクッタニ於ケルモ金貨一個ニ付銀貨十五半  
ヨリ餘分ノ數ヲ與ヘント欲スル者ハ一人モナ  
ク尚ホ銀貨十五半ニ付金貨一個以上ヲ與ヘン  
トスル者モアラザリキ是レ蓋シ仙圓ノ一定相  
場ハ全世界ノ公認シタル常例ノ相場ナリ之所  
以ナリ此方法ニ因テ金銀ノ比例相場ハ始終依



然トシテ変スルナク例ハ、英國ノ統計表ノ  
如キモ銀貨ノ数ヲ記スルニ殊更ニ金貨ノ「ウエリ」  
(英國貨)ノ計并ヲ以テセシ程ニシテ則チ「  
ウリ」ト稱スル時ハ常ニ銀貨ノ十五半ヲ云  
フ事ナリキ

然リト虽モ今ヤ此金銀兩用ノ憲法ハ全ク跡ヲ  
歐洲ニ絶テ最初日耳曼國法ニ於テ該帝國中銀  
貨ノ鑄造ヲ禁止セシヨリ和蘭國之レニ習ヒ他  
國亦之レニ次キ遂ニ全大陸中國トシテ銀貨ノ  
製造ヲ禁ヒサル者ナキニ至リ方今他國ニ於テ

ハ偏ハニ金貨ノミヲ鑄造レ其餘ノ各國モ亦專  
ラ貨幣偏用(金銀貨幣ノ内唯一種ヲ用ルヲ云)ヲ實踐スルガ故ニ  
此ニ初メテ銀貨下落ノ原因ヲ發生セシナリ今  
ヤ何處ニ於テモ法律ノ以テ金ノ價格ト銀ノ價  
格トヲ平均スヘキモノナキガ故ニ銀ノ價格ノ  
暫時モ一定スルヲナキ所以ハ蓋シ此ニ於テ判  
然タルナリ

第二章

印度為替相場ノ説

今夫レ甲乙二國ノ間ニハ同レ金屬ノ貨幣ヲ通



用スルガ故ニ為替証書ノ相場ニ於テモ必ス金  
属ヲ運送シテ之ヲ貨幣ニ鑄造スルノ費金ヨリ  
ハ多カラザルナリ例ヘハ佛國巴黎ヘノ為替相  
場ハ英國倫敦ニ於テ一「ソ」ウリオンニ付二十  
五「フ」ランク（仏國貨幣ノ名）ヨリ下落スル「ソ」ナシ如何ト  
ナルバ若シ此制限ヲ以テセザル時ハ為替証書  
モ更ニ其切ナク寧ロ「ソ」ウリオン「金」ヲ仏國ニ  
送りテ之ヲ改造スルノ廉ナルニ如カザレバナ  
リ  
斯ノ如クナレバ歐洲ニ於テ金銀兩種ノ「フ」ランク

貨幣ヲ鑄造セシ間ハ印度ト英國トノ間ニ於テ  
ルモ亦同様ノ形況ナリキ是ヲ以テ「ル」ピ（印度貨幣ノ名）  
ノ相場ハ美貨「ソ」ウエリオンノ比例ニ因リテ當  
時甚シキ下落ヲ生スル「ソ」ナク若シ不幸ニシテ  
下落ヲ来タス「ソ」アリトモ人民ハ其「ル」ピ「貨」幣  
ヲ改州ニ送りテ之ヲ「フ」ランクニ改造シ而シテ  
其「フ」ランクヲ以テ巴黎ニ於テ倫敦ノ為替証書  
若クハ十五半ノ一定相場ヲ以テ英國ノ金貨ヲ  
買收スルモ容易ナルベカリシナリ  
印度ノ「ル」ピ「貨」幣ハ斯ノ如ク改州ノ貨幣ニ改



造シ得ベキが故ニ印度為替相場モ亦前條ニ記  
スル如ク金屬ヲ運送シテ之ヲ貨幣ニ鑄造スル  
費金ノ制限内ニ永ク維持スルヲ得タリ  
千八百七十一年ノ日耳曼國法ニ因テ銀貨  
ノ鑄造ヲ禁止スルヲナクバ歐洲ニ於テハ尚ホ  
未ク其鑄造ヲ廢セザリシナルベク而シテ其金  
銀ハ今ニ於テ歐羅巴及ヒ亞細亞ノ間ノ通用貨  
幣ト爲リシナラン左スレバ英國印度ノ為替相  
場ノ如キモ佛國ノ金銀兩用ノ德沃ニ因テ永ク  
旧時ノ平均ヲ維持セシナルベク印度事務局モ

亦毫モ損失ノ憂ヒナク其為替証書ヲ發行スル  
ヲ得タリシナラン  
是ヲ以テ見ルニ銀貨ノ下落セシ所以ハ偏ハニ  
印度為替証書ノ賣却ヨリ生セシ事ニハ非スレ  
テ實ニ鑄造禁止ノ法ヨリ發生シタル銀貨ノ下  
落が故ニ為替証書ノ相場ヲモ低減スルニ至リ  
シ事ナルハ明カナリ  
斯ノ如クナレバ往年印度ノ貿易ガ多少隆盛ナ  
リシカ印度ト歐洲ノ間ニ運送スル商品ノ數多  
少著シカリシカ或ハ印度ニ於テ多少銀貨ヲ保



藏セシテアラバ當時世界ノ貨幣法ハ日耳曼國  
ノ爲メニ破毀セラレテ以テ貨幣偏用ノ變革ヲ  
來スマジキガ故ニ英國印度ノ爲替相場、如キ  
モ果シテ能ク永續セシナランハ必ズナリ

### 第三章

#### 損害ノ説

今ヤ争フテ金貨ノミヲ專用スルノ時ナリト雖  
モ往年鑄造ノ銀貨ハ尚ホ未タ世上ニ流通ヲ斷  
ツトナシ然レモ此銀貨ノ價直ハ唯名目、ミナ  
ルガ故ニ政府モ之ヲ改造セントスルニハ必ズ

影大ノ損失ヲ蒙ラサルヲ得ス斯ノ如キハ是レ  
現在歐洲一般ノ形況ナリ

嚮キニ一、年一千五百万「ポンド」ヲ産出  
セシガ今ハ之レニ代フルニ倫敦ナル印度事務  
局ヨリ印度爲替証書ヲ以テ毎年一千五百万「ル  
ピー」ヲ賣出スト雖モ其實僅カニ一千二百万「ポ  
ンド」ニシテ今後尚ホ之ヨリモ低減スベシト思  
ハル元來印度ハ出入ノ統計更ニ詳カナラズ一  
般ノ工業ハ日ニ之ヲ變更シ其外施政財用ノ方  
畧ニ至ルマテ凡テ其目的ヲ永續スルヲナク而



シテ其國費ヲ節制スルノ法及ヒ為替相場ノ下落ニ因テ損失ヲ為ス事ノ如キハ毫モ恢復ノ意ナキ如ク實ニ一大政府ノ政畧ニハ有ル。ジキ卑劣ノ所為ナリ斯レバ亞細亞及ヒ南亞米利加ノ地テ於テ賣却スル英國ノ商品ハ悉皆銀貨ヲ以テ其代價ヲ受取り而シテ其銀貨ナル者ハ則チ現今歐洲ニ於テ其鑄造ヲ禁止セシモノニシテ之ヲ金貨ト交換スルニ次シテ一定相場ニ依ルハカラザル者ナルガ故ニ到底商品ノ危險ヲ受ルガ上ニモ亦其代價ニ因テ幾層ノ危險ヲ

蒙ラサルヲ得サルナリ  
斯ノ如クナレバ英人ノ資本ヲ以テハ印度ニ於テ何等ノ事業ヲモ企テ難ク幸フシテ得タルルピル貨幣ハ悉々不愜カニシテ且其價ニモ判然ナラズル者ナレハナリ  
然リ、英人印度ニ於テルピル貨幣ノ買入相場ノミハ未ダ曾テ其勢カヲ墮スヲナレ是レ蓋シ引続キテ銀ノ輸入アルガ故ニ依ルベケレドモ若シ一旦ルピルノ其勢カヲ墮スヲアラハ其他ノ貨幣モ亦随テ衰フヘキハ必然ナリ然レハ此



衰亡ヲ来スニ先立テ夫ノ日耳曼法ノ破毀セシ  
所ハ何程ニ手段ヲ尽スモ英國法律ノ能ク防キ  
得ベキニ非サル所以ヲ詳カニ印度國人ニ説明  
シタキモノナリ何人カ能ク此事ヲ為スヤ  
合衆國ニ於テ正金拂ヒヲ再興セントスルニ付  
テモ亦銀貨ヲ其本位ニ復シ銀弗ト金弗ノ比例  
相場ヲ一定シ而シテ我カ税関ニ於テモ此銀弗  
ヲ受取ル又波等ヨリシテ歐洲ノ約定人ニハ銀  
弗ヲ以テ拂方ヲ自由ニセシムル時ハ同國ノ為  
ニモ極メテ有益ノ事ナルハ明カナリ然レド

此方法ヲ舉行セントスルニハ先ツ歐洲ヨリシ  
テ金銀兩用ノ道ヲ開クヲ第一ノ急務ナリトシ然  
ラザレバ歐洲ノ債主ハ常ニ歐洲ノ貨幣ニ換用  
スベカラサレ銀弗ヲ受取ルガ故ニ最モ甚ニ損  
天ヲ蒙ルヘケレバナリ是ヲ以テ見ルニ方今歐  
州ニ於テ銀貨ヲ用ヒザルハ合衆國ニ於テ正金  
拂ヒヲ恢復セントスル方法ノ為メニ甚ニキ  
妨害ナルベク且又合衆國ガ辛クシテ紙幣ノ困  
難ヲ免ルベキモ尚ホ昔時佛國ニ於テ執行シタ  
ル世界ノ金銀兩用ノ便ヲ與フル事ノ如キハ夢



ニダモ想像シ能ハザルナリ  
南亞米利加ノ諸國ノ如キモ亦其國產ノ銀ヲ以  
テ歐洲ニ於テ通用貨幣トスルヲ得サル時ハ斷  
然歐洲ノ負債ヲ消却スルヲモ或ハ歐洲ノ物品  
ヲ買入ルルヲモ為シ能ハザルハ明カナリ斯ノ  
如クナレバ貨幣偏用ノ方法ハ實ニ歐洲ヲ妨害  
シ亞細亞ヲ妨害シ又亞米利加ヲ妨害シ到底妨  
害ノ外更ニ一事ノ便益ヲモ生セザルナリ

#### 第四章

#### 怠惰ノ一説

元來英國人ハ特ニ金貨ノミヲ通用スルガ故ニ  
其銀貨ヲ見ルト恰モ木綿、鉄或ハ砂糖或ハ石炭  
等ノ物品ニ於ケルガ如ク殆ト同一ノ看ヲ為セ  
リ然リ而シテ今斯ク銀貨ノ下落スルハ抑、何事  
ノヤ或ハ云フ今日之レカ下落スルモ明日又騰  
貴スルヲアリ一低一高法律モ必ス之ヲ可認セ  
ザル可ラズ是等ノ事ハ他日果シテ晴天溫和ノ  
時機ニ違フトフラン我輩ハ商業隆盛ノ日ニ至  
テ必ス其平均ヲ得ルトアルマキラ信スルナリ  
ト



然リ若シ夫レ今ノ銀貨ヲシテ唯ニ一種ノ商品  
タラシメハ前條ノ説モ亦其理ナキニ非ス然レ  
氏銀貨ハ是レ尋常ノ商品ヨリハ甚タ重要ナル  
モノニシテ而モ純然タル一種ノ貨幣ナリキ殊  
一 新造ノ銀貨ハ皆法律ニ於テ其價直フル者ト  
定メシモノニシテ又真ニ從前鑄造ノ銀貨ヨ  
リハ實價ヲ有スル者ナリ是故ニ今勉メテ之ヲ  
恢復ニシバ一年自カラ其平均ヲ得ルノ日  
ヲ待ツモ頗フル無益ノ業ニシテ到底銀貨ニ從  
前歐洲ニ於テ通用貨幣タリシ時ノ相場ニハ復

ニベカラサルナリ嚮キニハ佛國ニ於テ十五半  
ノ一定相場ヲ以テ金貨ト交換セシガ故ニ銀貨  
ノ相場ハ常ニ金貨ト均シク依然トシテ変セザ  
リシト虽氏今ヨリ後ハ殆ト銅貨ノ如ク益々變化  
ヲ生スベキナリ  
斯レバ此事ノ怠惰ナルハ偏ヘニ國害ヲ釀成ス  
ルノ基ナルノミ之ヲ治理セントスルハニ去律ノ  
明断ニ依ラサル可ラズ而シテ其幣害スニ法律  
ハ業既ニ之ヲ實踐セリ願クハ善良ナル明法ヲ  
施カレシメテ



## 第五章

### 方法ノ一論

印度ニ金貨偏用ノ法ヲ施サントスル事ノ銀貨ヲ廃シ金貨ヲ偏用スルノ法ハ日耳曼帝國ト虽テ難ニイル所ナリ況ニヤ印度帝國ニ於テヤシテ印度ノ租税ヲ増加スル事即チ「ルピー」貨幣ノ量目ヲ増加セシトスル事。若シ銀貨ノ相場何程ニカ下落シ且其儘ニ変ルヲナクハ此意見モ亦一理ナキニ非ス然レモ其相場ハ常ニ変極リテキヲ如何セシ若クハ銀貨ノ相場ノ変更ニ從

テ租税ノ額即チ「ルピー」ノ量目ヲ定ムルノ方法アリヤ又我輩(英國)印度國人ニ向ヒ尔後年々金貨一千五百「ルピー」ヲ買入ル、ニ是ルベキ程ノ「ルピー」貨幣ヲ年租トシテ收納スベシト更ニ命シ得ベキヤ否斯ル方法ハ決シテ行ハル可ラザルノミナラズ頗フル粗暴ノ所為タルナリ

「ルピー」貨幣ノ増造ヲ廢セントスル事。若シ英國が強クテ事情ノ艱難ヲ耐忍セントスルノ決心アラバ印度ノ政務ヲ委任セラレタル人々ハ



夫ノ和蘭及ビ佛蘭西ノ旧例ニ習ヒテ銀貨ノ鑄造ヲ禁止セシメテ欲スルナラズト雖也然シ其後ノ形況ハ如何ナルベキカ嚮キニ歐洲ニ於テ銀貨ヲ禁止セシメ時ニ當リ銀錠ノ價格ハ如何ナリシ今又カルクッタ及ビボムベ<sup>以上印度ノ造幣局</sup>ニ於テ之ヲ禁止スル時ハ何等ノ價格ヲ為スカ又印度人ノ常ニ衣服ニ裝飾スル銀塊ノ如キハ夥シキ量數ナレバ若シ之ヲ貨幣ニ改造スルヲ禁セラレタル時ハ何等ノ價ヒアリヤ到底銀價ハ限リナキ下落ヲ生シ從前鑄造ノ貨幣モ度ニテ

青銅ト為ルベク而シテ之ヲ溶解スル時ハ益其價ヲ減スベキナリ斯ノ如キハ是レ貨幣偏用ヨリ生シタル妄想ニシテ恰モ銀貨ノ不通用ヲ布令スルト一般ナリ

今夫レ世界ノ貨幣機械ハ既ニ地ニ落テ我輩ハ恰モ洪水ノ中ニ漂フ如シ印度ニセヨ或ハ其他ノ國ニセヨ決シテ特リ其國ノミヲ防キ得ベキニ非サルハ勿論國トシテ尋常ノ方法ニ因テ此難ヲ免ル、能ハサルハ明カナリ



第六章

救済法ハ獨リ金銀併用ニ在ル説

千八百七十一年以來歐洲ニ於テ創立シタル貨  
幣關係ノ法律ヲ再考スルトキハ銀貨ハ其價ヲ  
復スベシ印度引替相場ハ其舊位ニ復スヘシ印  
度券ノ千五百萬磅ハ損失ヲササスヘシテ賣却ス  
ルヲ得ベシト此數條ノ意ニ出テサルハナシ然  
レトモ宛然旧位ヲ挽回スルハ甚ク難カルベシ  
日耳曼ハ金貨ヲ賣却シ再ヒ銀貨偏用ニ歸ラサ



ルベシ佛國ハ自ラ危険ヲ冒カシテ銀貨再鑄ヲ  
企テサル可シ金銀併用ハ獨リ萬國ノ協力ニ因  
テ再立スルヲ得ベシ而テ印度モ之ニ加ハラサ  
ル可ラス蓋シ一金偏用ノ過誤ヲ廢セン、欲セハ  
佛國ノ金銀併用ヨリ一層利便ナル併用ヲ行ハ  
サル可ラス萬國金銀併用是ナリ  
銀貨ヲ得ルタメニ金貨ヲ鑄製シ或ハ金貨ヲ  
得ルタメニ銀貨ヲ鑄製シ之ヲ携ヘテ佛國ニ  
來ルモ其手數ハ全ク徒費ニ屬セサルベシ尤モ  
持歸ラントスル貨幣ノタメニ些少ノ引換債ヲ

拂ハサル可ラス之ニ如フルニ運送鑄造ノ費ア  
リ萬國併用ニ於テハ更ニ是等ノ失費ヲ要セス  
萬國金銀併用ニ至ルトキハ一金偏用ノ國ナ  
リ所トシテ金銀併ヒ行ハル、ノ地ニアラサル  
ハナシ寔早併用ハ宇内中唯佛國ノミニアラス  
而テニ金何レノ地ニ於テモ十五千<sup>半</sup>ノ普通  
比價ヲ以テ本位トナストキハ金ヲ以テ銀  
ニ換ヒ銀ヲ以テ金ニ換ヘント欲スル者アラ  
サルベシ



辨駁說

第一「若シ銀貨ヲシテ無限本位ヲ以テ流通セシムル  
トキハ英國」ロベリン金貨ハ其價ヲ失フベシ夫ノ  
物ヲ買フカラ減スベシ」

是則誤見ナリ若シ銀貨ヲ流通ノ外ニ驅出ス  
ルヲ得ハ金貨ノ價ハ自ラ騰ルベシ若シ銀貨ヲシ  
テ常テ流通ノ内ニ在ラシメサリシナレハ金  
貨ハ現價ヨリモ猶騰リシナラン然レトモ是  
迄銀貨ハ常ニ流通シテ止マズ常ニ金貨ト競  
争シタリ故ニ此競争ノタメニ金價上ニ蒙

ルナセ

ルベキ損減ハ已ニ充分ニ蒙ムリタレハ最早  
憂慮スルニ足ラス仮令銀貨カ英國ニ流通セ  
サリシモ英金ノ價ハ銀貨競争ノ差響ヲ決シ  
テ免ヌカル、ヲ得サルベシ是ガ證據トスル  
ハ銀貨ト相併立シテ流通スル佛金ヨリ英金  
ハ其價ヲ決シテ加ヘレトナシ  
佛國ノ併用ヲ以テスルトキハ「リベリ」金ハ  
恰モ「フランク」金佛ノト等シク銀貨ノ重量十五  
倍半ノ價ナリ萬國ノ併用ニ於ケルモ又此ニ  
至ルヘシ故ニ英國ニ於テ銀貨ノ流通ハ英



金ノ價ヲ損セザルノ理ナリ

第二信任ヲ破ル

英國ノ財主ハ金貨ヲ以テ約定シ若シ銀貨ヲ以テ拂ハル、トキハ苦情ナキ能ハス是則銀價其名ヲ金價ト等フシテ其實之レヨリ減スレハナリ然レトモ金銀精密ニ平等ナルトキハ如此憂ナシ獨リ萬國併用此ニ至ラシムヘシ

英國ハ更ニ施行シ初メ金銀併用次ニ銀貨偏用再ヒ金銀併用而テ終リニ金貨偏用タリ此變

更コトニ英國ハ財主ニ對シ信任ヲ破リシ誹謗ヲ受ルヲナクシテ之ヲ行ヘリ荷蘭白耳義合衆國モ其通貨ヲ變シテ批判ヲ免ヌカル、ヲ得タリ佛國ノ財主ハ金ヲ以テ拂フモ或ハ銀ヲ以テ拂フモ更ニ意ニ關セス色ノ黃白ヲ以テ常ニ損益スル所ナシ英國ノ財主モ又如斯ナラサル可ラス此改革ハ英國印度及全世界ノタメニ謀ルモ大ニ必要トス蓋シ之ヲ行フハ銀貨鑄造ノ自由ヲ一般ニ布告シ英國ニ於テモ又之ヲ發スベシ此改革ノタメ損害ヲ蒙ム



ル者ナカルベレ是ヲ拒ムニハ至當ノ事理ナ  
カル可ラス或ハ詫言ヲ設ケ或ハ憫然タル疑  
惑ト云フガ如キハ論スルニ是ラサルナリ

第三金ハ富國ノ貨幣ナリ英國ハ金貨ヲ用ヒサル可

ラス

是則有害ノ語ナリ佛國合衆國荷蘭白耳義ハ  
更ニ金銀ヲ用ヒ来タレトモ其時ニ從フテ更ニ  
貧富ヲナセシメナシ印度ハ銀貨ヲ用ユル今  
ヨリモ大ニ金貨ヲ融通セシ往時ニ於テ却テ貧ナリ  
シ英國ハ金貨偏用ヲ以テ殷富タリト虽モ常

ニ兩金互ニ相交換ヲ要スル現時ノ貨幣市場  
ヲシテ猶太ニ獨立ノ氣風アラシム可シ而テ  
金銀併用ハ貨幣ノ窮迫ヲ妨止シ或ハ之ヲ寛ナラシ  
ムヘシ又人民ハ一ヲ以テヨリモニヲ以テ善ク自ラ  
保護シ能フナリ

第四銀貨ハ重キニ過クノ不便

若シ人身邊ニ之ヲ携帯シテ行クトキハ金貨モ亦  
重シト云フ可シ然レトモ手券銀行紙幣アリ  
一リシグ(銀行ニ於テ)ノ類本貨ノ運搬ニ代ハル  
ベシ些額ノ取引ニ至テハ金銀銀行紙幣等通



貨ノ種類多キヲ利便ナリトス

第五金ノ物ト換フカハ堅定ニシテ變動ナシ故ニ金貨ヲ最良トス

物ト換フカノ堅定ナルハ産出ノ堅定ナルニ割合フノ理ナリ元來金ノ産出ハ銀ノ産出ニ比スレハ甚タ不規則ナリ故ニ金ノ物ト換フカハ此理ヲ以テ考フルトキハ堅定ナラサル可ラス彼ノ例ヲルニヤ豪斯太利金ノ注入ニ當テ英金ノカヲ維持シタルハ一般ニ銀貨ノ流通アルト佛國ノ重量比例十五千分ノ一

タリシ故ナリ蓋シ金ノ産出不規則ナルニ從フテ銀ノ産出愈不規則ナリ然レモ両金ノ産出互ニ平均シニ物相合シタル産出ハ甚タ整然タルモノナリ去廿四年間両金十五千分<sup>半</sup>十ノ比例ヲ以テ年々三千三百萬磅ヲ産シ殆ト一轍ニシテ更ニ増減アルヲナシ獨リ両金ノ貨幣ヲ以テ産出初メテ規則アリ獨リ両金ノ貨幣ニ回テ價初メテ堅定ナリ

第六改革コトニ失費アリ

此理アルヲナシ十五千分<sup>半</sup>ヲ以テ一般ノ比



例トナストキハ貨幣ノ改鑄ヲ要セス現今  
流通ノ貨幣ヲ凡テ其儘ニナシ置クベシ蓋シ十五  
千分<sup>半</sup>ノ外ハ他ノ比例ヲ立ツ可ラサルハ此  
理アルガ故ナリ英國ハ此改正ノタメニ「クロ  
ウ」或ハ「ダブルフロリン」(銀錢)十「ルピ」或  
ハ「セロピ」金ノ鑄造ヲ免ルシ「リベリン」金ト「ル  
ピ」銀トノ鑄造ヲ續ケシメハ足レリ

第八回

十五<sup>半</sup>分<sup>半</sup>ノ比例ハ動ス可ラサル事  
十五<sup>半</sup>分<sup>半</sup>ノ比例ハ追テ改正ス可シト之ヲ約

スルハ必要ナルカ否ナ之ヲ西オセス此比例ハ動  
ス可ラサルモノナリ然ラザレハ金銀併用ハ遂ニ行ハレ難  
シ若シ千八百三年ノ佛國ノ法令ニ於テフラン  
ク<sup>シ</sup>金ノ重量ハ其後ニ變更スルヲ得ベシフラン  
ク<sup>シ</sup>銀ハ變更セサルベシト約セシトキハ「フラン  
ク<sup>シ</sup>金ハ信憑ヲ破フリ人民ハ當時凡テフランク<sup>シ</sup>銀ヲ以  
テ約定スルノ豫謀ヲナセシナラン佛國ニ是ヲ施  
セハ佛國併用ハ方今ノ如ク外國ニ影響ヲ及  
ホサス西金ノ比價ハ定着スル所ナカリシナラ  
ン



然ルニ亦説アリ「五千分」ノ動ス可ラサルヲ  
保スルハ供給需要ノ法則ニ拘ハラスニ箇ノ商  
品ハ常ニ比例ノ位價ヲ有スベシト保スルカ如  
ク恰モ行フ可ラサル「」ヲ保スルナリト此説ハ猶未  
ク貨幣ト商品ト相混スルノ紛雜ヲ免ヌカレス  
蓋シ商品ニ於テハ競争供給需要品價等ノ事ヲ  
云フヲ得ズシ貨幣ニ於テハ全ク其趣ヲ異トニセ  
リ其産出ハ多キモ少キモ損アルモ得アルモ  
鑿鑿者ハ他ノ鑿鑿者ヨリ其貨幣金屬ヲ高低シ  
テ賣ルヲ得ス何トナレハ貨幣金屬ノ賣買スル

ヲ要セス其物自ラ其價ナレハナリ供給ナク需  
要ナク鑛坑ヨリ出ツルヤ忽テ其全カラテ流通ニ加ハ  
リ其物ト換フカハ已ニ流通スル他ノ貨幣ト  
更ニ異トナルヲナレ則自ラ他ノ貨幣ニ混入スレ  
ハナリ是ヲ以テ競争賣買品價等ノ事ナレ如斯  
ハ則貨幣金屬ニ固有スル其方向ナリ故ニ貨幣  
ノ法制カ両金任用ニ在ルトキハ金銀必ス同轍  
ノ勢向ニ出ツ可シ故ニ産金者ト産銀者トノ間  
ニ競争ナク賣買ナク又両物ノ間ニ紛雜ナク品價  
ナシ供セス需メス法制ノ價ヲ以テ流通之ヲ収



去シ又之ヲ拒避スルヲ得ス貨幣ノ法制兩金併用ニ  
在ルトキハ金銀ハ鑛塊タリトモ貨幣タリトモ商品  
タルトナレ是則秘訣ト云フベシ  
其色異トナリ其重量異トナリ其産出又異トナレ  
トモ妨ケナレ唯兩金ノ物ト換フカ法律上ニ等  
シキトキハ一ノ價他ヨリ減スルトナレ是ヲ以  
テ金銀貨ノ間ノ重量比例ヲ変更スルヲ要セサ  
ルナリ

千八百三年ニ佛國ノ立法者ハ其法永遠ニ行ハ  
ルベキヲ知り十五<sup>年</sup>分<sup>ハ</sup>假リニ定ムル比例

ニシテ改正スルヲ得ベキモノナリト言ハサリ  
シハ意ヲ用ヒタリト云フベシ故ニ此比例ヲ変ス  
ルトナク己ニ七十年ノ久シキ間之ヲ以テ金字内  
ノ金銀比價ヲ制シタリ今此法ヲ設ケ之ヲ  
天下ニ遍子カラシメ不易ノ基礎ヲ立テント  
欲セハ萬國公會ニ因ラサル可ラス蓋シ此舉  
ノ萬國ニ與フベキ利益モ亦大ナリト云フベ  
シ



